

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475100838	事業の開始年月日	平成17年11月1日	
		指定年月日	平成17年11月1日	
法人名	株式会社ウイズネット			
事業所名	グループホームみんなの家新川崎			
所在地	(212-0054)			
	神奈川県川崎市幸区小倉805-7			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年1月20日	評価結果 市町村受理日	平成22年5月13日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>季節感を感じて頂く為にフロアを飾り付け、明るく、ゆったりとした雰囲気作りを心掛けています。また、利用者様同士で楽しく会話ができる様に、気分を変えてソファに座り、くつろいで頂いたりして、いつも会話が絶えず、明るい声が聞こえる空間作りをしています。レクリエーションは個々の得意な事をしたり、踊りの好きな方には先生になって教えていただく等、みんなが参加出来る様工夫し、外出する機会を設ける等して、利用者様との信頼関係を深めながら、日々、穏やかに安心して過ごして頂けるよう、職員一同努力しています。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年2月8日	評価機関 評価決定日	平成22年4月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><優れている点> ○きめの細かい情報収集 入居前に行うアセスメントの時に使用する基本情報や介護計画の作成前に行うケアカンファレンスに使用するADL情報があるが、記載されている情報は、利用者に関する様々な情報だけでなく、それに対しどのようなケアが必要なのかまで詳細に記入され、職員はそれを活かし日々のサービス提供に活用している。 ○重度化や終末期の対応 利用者の要介護度が以前に比べ高くなってきている。そのような現実に対し、当事業所では看取りに関する基本方針を契約時に明確にし、家族や利用者の意向を踏まえ実現可能な「看取り介護計画」を作成し、職員が対応すべきことを明確にしている。勿論、それと同時に医療機関、看護師、介護スタッフによる支援体制ができています。 <工夫している点> ○廃材利用 新聞紙で作ったコサージュ、牛乳パックと色紙で見事な出来栄えの小物入れ、廃棄予定のコピー用紙で作った小さな花立など廃材を有効利用し、利用者が作ったものがたくさんある。当事業所のリサイクルに対する意識の高さを痛感しました。←感想 ○利用者の笑顔を引き出す工夫 日常的な会話は勿論の事、当事業所では職員が中心となって利用者が興味を持ってそうな様々なレクリエーションを提供し、それらに参加してもらうことにより、利用者様がごく自然に笑顔を出せるような工夫を行っている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム みんなの家 新川崎
ユニット名	2 F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

みんなの家新川崎

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔とホットな心で共に支えあう」との事業所理念を掲げ、ケアやサービスを行う際の指針としている。	・理念は「笑顔とホットな心で共に支えあう」を掲げ、ケア会議などの場で、理念の具現化について話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、地域の敬老会に参加させて頂いたり、夏祭り等のホームイベントの際には近所の住民の方々にも参加して頂く等、交流の機会を確保している。	・町内会に入会しており、利用者は地域の敬老会の交わりに参加し、また、事業所の夏祭りには近隣の方々に参加を呼びかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の役員の方を訪問したり、運営推進会議等の場を利用して、介護サービスを提供する法人として、情報提供等、地域のお役に立てる方法を模索している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、ホームでの出来事や事故の状況に関し出席者に報告を行っており、防災対策等、地域との情報交換をする事で、実際のサービスに反映出来るよう試みている。	・3ヶ月に一回の割合で会議が行われている。会議には市の職員も参加している。最近の会議では、災害対策について避難先や公会堂などでの備蓄など、災害時に必要な諸事項が話し合われた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を窓口にして市の職員と情報交換を行っており、協力関係を確保している。また、福祉事務所の職員と連携をとり、利用者が必要なサービスを受けられるよう支援している。	・市の職員が運営推進会議に出席し家族と意見交換するなど当事業所の実状を把握し、何かあれば直ぐに相談できる関係を作っている。また、市の介護に関する冊子などを置き、家族が自由に持って行くことができる。	

みんなの家新川崎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保の為、ホームの玄関入口以外には原則的に施錠しておらず、ケアの実施の際にも、それが身体拘束にあたらないかを検討しながら修正を行っている。	・玄関ホールに「身体拘束ゼロ推進」と言うスローガンを掲げ、サービス提供場面では身体拘束をしないように職員間で話し合い実践している。但し、玄関は安全確保のため日中でも施錠している。	現在玄関を日中も施錠していますが、「日中施錠しない管理体制」について検討することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各種法令に関しては随時研修を行う必要があるが、虐待防止マニュアルが閲覧できるようになっており、虐待が行われる事がないよう、各職員が共通の認識で業務を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関してはホームに該当者がおらず、自立支援事業についても特に研修を行っている為、研修・学習の場を設ける必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項の説明を行うと同時に、ご家族や利用者に疑問や質問がないかを確認し、説明をおこなっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に家族会にて、ご家族のご意見・ご要望を承り、それをホームの運営に反映させている。又、ご家族が施設長に対していつでも意見を表出できる旨の案内を、毎月ご家族に送付している。	・運営推進会議、家族会などを通じ家族の意見や要望を聞く機会を持っている。また、玄関ホールには意見箱を用意している。重要事項説明書には外部、内部の苦情相談機関を明記している。	

みんなの家新川崎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に職員会議にて、各職員が利用者のケアやホームの運営に関し意見を出し合い、改善に繋げている。	・管理者は主として職員会議を通じて職員の意見を聞いている。最近では生活記録の記入方法の変更などに関して職員から意見が出され、早速採用した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実績を考査に反映させ、昇給に繋げている。職員からの意見を受け、職場環境の改善を行っているが、休憩時間の確保など課題も残っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修案内を事業所内に掲示しており、研修への参加を促している。入社時の社員研修を始めとして、法人内の研修は多岐にわたり、自由に参加できる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人外と同業者との連携が確保出来ておらず、今後の課題であり、運営推進会議等を通して関係性を構築していく必要がある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談をさせて頂き、利用者やご家族より要望等を伺い、それを介護計画書に反映させて、利用者が安心してホームで生活できるよう、職員が関わりを持ち支援を行っている。		

みんなの家新川崎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階でご家族より要望等を伺い、利用者と共に安心してサービスを受けて頂く事が出来るよう、入居後も継続してご家族との情報交換を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者のご家族の要望を受け、グループホームの特性を踏まえた上で、他のサービスの利用も視野に入れて支援の内容を検討し、同意を頂いた後にサービスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者の自立を支援する立場に徹しているが、ホームでの日常の中で、互いに学びあい、助け合う関係性が構築されている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでのイベントに参加して頂いたり、時にはボランティアで訪問して頂いている他、利用者の通院に付き添って頂く等、様々な面で協力して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話連絡等、ご家族の理解を頂いた上で、利用者が馴染みの関係を維持出来るよう支援を行っている。	・入所時に、利用者の生活歴などを把握し、親しかった友人、よく利用していたお店などを把握し、継続して利用できるように配慮している。友人などが訪れた際には面談する場所も確保している。	

みんなの家新川崎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や散歩等のレクの他、おやつや食事をフロアで召し上がって頂き、後片付け等を皆で行う事で、利用者同士の交流や、協力の機会を確保している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、ご家族からのご相談や問い合わせがあれば対応させて頂く他、必要に応じ、法人内外の介護サービス等の情報提供を行っている。		
Ⅲ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話や行動からの希望の読み取りや、直接の質問で意向の把握を行っている。ご自分の意思を表出できない方に関しても、事物に対する反応やご家族の意見を踏まえ検討している。	・職員は利用者との日々の関りの中で利用者の思いや希望を聞くようにしている。また、コミュニケーションが困難な場合は態度や表情などで思いや希望などを把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に際して、利用者やご家族より直接生活歴等を伺う他、ホームにて利用者と交流を持つ中で、その方のお話や行動からの、継続した情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に変化が認められた時は個別カンファレンスを行い、状態の変化に合わせて支援内容も変更している。血圧等のバイタルや日中の様子も記録に残し、比較検討の材料としている。		

みんなの家新川崎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画変更時には個別カンファを行い、利用者にとって必要なサービスを検討すると共に、モニタリングによる振り返りを経て、ご家族の承認の下、介護計画を作成している。	・介護計画の作成にあたり、利用者や家族の意向を確認し、さらに職員間で話合って作成している。また、見直しは6ヶ月ごとに行っているが、状況の変化があった場合には臨機応変に現状に即して見直して対応している	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の発言や表情の他、介護計画書に沿ったケアを実施した場合も生活記録に記入している。また、気づきや工夫等有れば連絡ノートに記入する事で情報の共有がなされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化に合わせての対応の他、馴染みがなかった事への誘い等、新たなニーズの発掘に努めている。非緊急の通院等でご家族の都合が悪い時は、可能な限り職員対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署立会いによる消防訓練等の安全確保の取り組みの他、近くのコンビニやスーパーに買い物に行く等、地域との交流を保ちながらの生活が出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間の連絡体制を確保したホームかかりつけ医の往診・健康管理は、ご家族の同意の上行われている。また、利用者が馴染みの医師との関係を断たれる事のないよう支援している。	・家族の同意の下に、事業所の協力医と歯科医から月2回の往診を得て、利用者の健康管理を行っている。利用者の希望があれば、従来のかかりつけ医からの受診もできるように配慮している。	

みんなの家新川崎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師連絡表を作成しており、気づきや経過を報告し、看護師からのアドバイスを受ける体制を確保しており、いつでも看護師に相談出来るよう、連絡先の記入もなされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院に際しては、介護サマリーやお薬の情報を提供し、退院時には、直接施設長が入院先の職員と面談して、経過や退院後のホームでの注意点等、情報の聞き取りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの事例は一件しかないが、往診医の判断・立会いの下、ご家族に説明を行い、ご家族の意向も踏まえた上で、ホームで実施可能な看取り介護計画書を作成し、同意を頂いた。	・契約書時に当事業所の「重度化した場合の対応に係る指針」に基づき、事業所の方針を利用者・家族に説明している。提携医、看護師、介護スタッフが連携し、家族の同意の下に対応することが明記されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署立会いによる非難訓練の場を利用して、消防隊員によるAEDの使用方法や、心臓マッサージの講習をして頂いた。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非難・消火訓練は行っているが、地域資源を活用した災害対策は確立しておらず、運営推進会議等を利用して、早急な対策が求められる。	・災害対策として避難訓練、消防訓練は行われているが、夜間を想定した避難訓練までは行っていない。また、町内会には入会しているが、地域との防災協定書を結び、地域の協力を得られる段階までに至っていない。	夜間に災害が発生した場合に備えての訓練の実施、及び、地域との防災協定の締結に向かって引き続き努力されることを期待します。

みんなの家新川崎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者であり、サービス利用者である事を認識し、ノックなしの入室や、愛称等を用いない等、普段の対応から気をつけている。居室入口の暖簾で覗き窓を隠す等の配慮がされている。	・職員は利用者へ姓で呼び掛け、常に敬意をもつての支援に心掛けている。また、フロア会議で利用者の誇りを守り、プライバシーを損ねない支援について話し合い実行している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員との信頼関係を築かせて頂く事により、気兼ねなく意思を表出できる雰囲気作りに努めている他、「～して貰っていいですか」等、利用者の判断を尊重する声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝時間や入浴日を定めておらず、医療・介護上の要求に支障のない限りにおいて、その方のペースで生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の他、美容院等、外出しての散髪も出来、更衣の際に服を選んで頂いたり、マニキュアを塗る手伝いを職員が行う等、その方が楽しめる整容のあり方を探っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや片付けを職員と利用者で分担して行い、得意なことや能力により作業を担当して頂いている。職員と利用者は、同空間で同じ食事を摂り、交流を機会を持っている。	・利用者は、個々の能力に応じテーブル拭き、盛り付けや後片付けを行っている。職員は利用者と一緒に食事をとり、楽しさを盛り上げながら、必要に応じてさりげなく介助している。	

みんなの家新川崎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がバランスを計算した食事を提供し、必要な水分量や食事量は、往診医の指示に基づいて提供している。トロミ剤を使用し飲み込みやすくする等、個別の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨きにお誘いし、出来る範囲で磨いて頂いた後に、磨き残し等の補助を行っている。月4回の訪問歯科にて、口腔内の衛生管理アドバイスや、異常の有無の確認を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄に関する記録を残す事によりパターンを把握し、誘導やオムツ使用の必要の有無を検討している。	・排泄チェック表で一人ひとりのパターンを把握し、トイレでの排泄と、可能なかぎり自立できるように支援に心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操の他、水分を摂って頂いたり、おやつにヨーグルト等を提供する事により、順調な排便を促している。便秘気味の方には、便秘の解消に向けて往診医の指示を仰いでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の際、職員の介助を提供するにあたり、必ずしもご希望のタイミングに浴えない事もあるが、入浴日等は決めておらず、可能な限り利用者の意向を尊重している。	・入浴は、特に入浴日を決めず、出来るだけ個々の生活習慣や希望を尊重し行っている。入浴を好まない利用者へは、自ら入浴する気になるよう声かけに工夫している。リフト浴対応も可能である。	

みんなの家新川崎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は定めておらず、自室での休憩も原則自由にして頂いているが、昼夜の逆転に留意して声掛けを行っている。日中はレク等の活動をして頂くことで、夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診医の処方による薬が薬局担当者によりホームに届けられる際、職員が薬の取り扱いについての注意点等の説明を受けている。症状に変化があれば、往診医の指示を得て対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方のリズムで生活して頂きながら、編み物や園芸等お一人で楽しめる事に、歌やゲーム等大勢で交流を持てる機会を交え、支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等の要望があれば、タイミングを調整させて頂く事もあるが、職員付き添いの上外出して頂いている。希望により、利用者のご家族が外出・外食されるのも自由である。	・個々の利用者の希望に合わせて、職員と買い物がてら散歩に出たり、施設の畑で野菜を育てるなど気分転換を図っている。半年ないし1年に1回、バス旅行を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の買い物には職員が同行し、お金を使って頂いている。利用者の預かり金は原則事業所で管理しているが、利用者の意向とご家族の同意の下、直接のお金の所持も可能である。		

みんなの家新川崎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望を受け、ご家族に確認を行った上で、手紙や電話等の、親睦を継続する支援を行っている。空調等も、利用者の要求により調整を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクで利用者と職員が共作した作品や、個人で作った品、行事の際の写真等を掲示し、馴染み易い空間作りを行っている。空調等は、利用者の要求により調整を行っている。	・居間兼食堂は、利用者の作品を飾り、清掃も行き届き明るく清潔である。食卓の他にソファやテーブル・椅子を配置し、一人でくつろいだり、家族や知人の訪問時に利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の居間以外にも、ソファやテーブルを設置して、他の方と距離を置いたり、親しい方と過ごせるスペースがある。屋外やベランダには、喫煙所も設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーペット等は防火仕様のもの、等の制限はあるものの、馴染みの家具や仏壇の使用など、その方が自宅にいらした頃に近い環境で過ごして頂けるよう環境づくりを行っている。	・エアコン・ベット・タンス・クローゼット・カーテンが備え付けられ、利用者は思い思いに好みの物で室内を飾っている。シーツ交換を週1回行い居室は毎日職員が掃除をして清潔を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かり易いよう、トイレや浴室は大きな文字で表示をしたり、テーブルの席には名前の記入をしている。個室では、家具やベッドの位置を調節し、転倒しにくい環境作りに努めている。		

事業所名	グループホーム みんなの家 新川崎
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

みんなの家新川崎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔とホットな心で共に支えあう」との事業所理念を掲げ、ケアやサービスを行う際の指針としている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、地域の敬老会に参加させて頂いたり、夏祭り等のホームイベントの際には近所の住民の方々にも参加して頂く等、交流の機会を確保している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の役員の方を訪問したり、運営推進会議等の場を利用して、介護サービスを提供する法人として、情報提供等、地域のお役に立てる方法を模索している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、ホームでの出来事や事故の状況に関し出席者に報告を行っており、防災対策等、地域との情報交換をする事で、実際のサービスに反映出来るよう試みている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を窓口にして市の職員と情報交換を行っており、協力関係を確保している。また、福祉事務所の職員と連携をとり、利用者が必要なサービスを受けられるよう支援している。		

みんなの家新川崎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保の為、ホームの玄関入口以外には原則的に施錠しておらず、ケアの実施の際にも、それが身体拘束にあたらないかを検討しながら修正を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各種法令に関しては随時研修を行う必要があるが、虐待防止マニュアルが閲覧できるようになっており、虐待が行われる事がないよう、各職員が共通の認識で業務を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関してはホームに該当者がおらず、自立支援事業に関しても特に研修を行っていない為、研修・学習の場を設ける必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項の説明を行うと同時に、ご家族や利用者に疑問や質問がないかを確認し、説明をおこなっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に家族会にて、ご家族のご意見・ご要望を承り、それをホームの運営に反映させている。又、ご家族が施設長に対しいつでも意見を表出できる旨の案内を、毎月ご家族に送付している。		

みんなの家新川崎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に職員会議にて、各職員が利用者のケアやホームの運営に関し意見を出し合い、改善に繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実績を考査に反映させ、昇給に繋げている。職員からの意見を受け、職場環境の改善を行っているが、休憩時間の確保など課題も残っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修案内を事業所内に掲示しており、研修への参加を促している。入社時の社員研修を始めとして、法人内の研修は多岐にわたり、自由に参加できる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人外と同業者との連携が確保出来ておらず、今後の課題であり、運営推進会議等を通して関係性を構築していく必要がある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談をさせて頂き、利用者やご家族より要望等を伺い、それを介護計画書に反映させて、利用者が安心してホームで生活できるよう、職員が関わりを持ち支援を行っている。		

みんなの家新川崎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階でご家族より要望等を伺い、利用者と共に安心してサービスを受けて頂く事が出来るよう、入居後も継続してご家族との情報交換を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者のご家族の要望を受け、グループホームの特性を踏まえた上で、他のサービスの利用も視野に入れて支援の内容を検討し、同意を頂いた後にサービスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者の自立を支援する立場に徹しているが、ホームでの日常の中で、互いに学びあい、助け合う関係性が構築されている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでのイベントに参加して頂いたり、時にはボランティアで訪問して頂いている他、利用者の通院に付き添って頂く等、様々な面で協力して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話連絡等、ご家族の理解を頂いた上で、利用者が馴染みの関係を維持出来るよう支援を行っている。		

みんなの家新川崎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や散歩等のレクの他、おやつや食事をフロアで召し上がって頂き、後片付け等を皆で行う事で、利用者同士の交流や、協力の機会を確保している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、ご家族からのご相談や問い合わせがあれば対応させて頂く他、必要に応じ、法人内外の介護サービス等の情報提供を行っている。		
III 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話や行動からの希望の読み取りや、直接の質問で意向の把握を行っている。ご自分の意思を表出できない方に関しても、事物に対する反応やご家族の意見を踏まえ検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に際して、利用者やご家族より直接生活歴等を伺う他、ホームにて利用者との交流を持つ中で、その方のお話や行動からの、継続した情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に変化が認められた時は個別カンファレンスを行い、状態の変化に合わせて支援内容も変更している。血圧等のバイタルや日中の様子も記録に残し、比較検討の材料としている。		

みんなの家新川崎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画変更時には個別カンファを行い、利用者にとって必要なサービスを検討すると共に、モニタリングによる振り返りを経て、ご家族の承認の下、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の発言や表情の他、介護計画書に沿ったケアを実施した場合も生活記録に記入している。また、気づきや工夫等が有れば連絡ノートに記入する事で情報の共有がなされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化に合わせての対応の他、馴染みがなかった事へのお誘い等、新たなニーズの発掘に努めている。非緊急の通院等でご家族の都合が悪い時は、可能な限り職員対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署立会いによる消防訓練等の安全確保の取り組みの他、近くのコンビニやスーパーに買い物に行く等、地域との交流を保ちながらの生活が出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間の連絡体制を確保したホームかかりつけ医の往診・健康管理は、ご家族の同意の上行われている。また、利用者が馴染みの医師との関係を断たれる事のないよう支援している。		

みんなの家新川崎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師連絡表を作成しており、気づきや経過を報告し、看護師からのアドバイスを受ける体制を確保しており、いつでも看護師に相談出来るよう、連絡先の記入もなされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院に際しては、介護サマリーやお薬の情報を提供し、退院時には、直接施設長が入院先の職員と面談して、経過や退院後のホームでの注意点等、情報の聞き取りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの事例は一件しかないが、往診医の判断・立会いの下、ご家族に説明を行い、ご家族の意向も踏まえた上で、ホームで実施可能な看取り介護計画書を作成し、同意を頂いた。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署立会いによる非難訓練の場を利用して、消防隊員によるAEDの使用方法や、心臓マッサージの講習をして頂いた。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非難・消火訓練は行っているが、地域資源を活用した災害対策は確立しておらず、運営推進会議等を利用して、早急な対策が求められる。		

みんなの家新川崎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者であり、サービス利用者である事を認識し、ノックなしの入室や、愛称等を用いない等、普段の対応から気をつけている。居室入口の暖簾で覗き窓を隠す等の配慮がされている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員との信頼関係を築かせて頂く事により、気兼ねなく意思を表出できる雰囲気作りに努めている他、「～して貰っていいですか」等、利用者の判断を尊重する声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝時間や入浴日を定めておらず、医療・介護上の要求に支障のない限りにおいて、その方のペースで生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の他、美容院等、外出しての散髪も出来、更衣の際に服を選んで頂いたり、マニキュアを塗る手伝いを職員が行う等、その方が楽しめる整容のあり方を探っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや片付けを職員と利用者で分担して行い、得意なことや能力により作業を担当して頂いている。職員と利用者は、同空間で同じ食事を摂り、交流を機会を持っている。		

みんなの家新川崎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がバランスを計算した食事を提供し、必要な水分量や食事量は、往診医の指示に基づいて提供している。トロミ剤を使用し飲み込みやすくする等、個別の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨きにお誘いし、出来る範囲で磨いて頂いた後に、磨き残し等の補助を行っている。月4回の訪問歯科にて、口腔内の衛生管理アドバイスや、異常の有無の確認を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄に関する記録を残す事によりパターンを把握し、誘導やオムツ使用の必要の有無を検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操の他、水分を摂って頂いたり、おやつにヨーグルト等を提供する事により、順調な排便を促している。便秘気味の方には、便秘の解消に向けて往診医の指示を仰いでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の際、職員の介助を提供するにあたり、必ずしもご希望のタイミングに沿えない事もあるが、入浴日等は定めておらず、可能な限り利用者の意向を尊重している。		

みんなの家新川崎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は定めておらず、自室での休憩も原則自由にして頂いているが、昼夜の逆転に留意して声掛けを行っている。日中はレク等の活動をして頂くことで、夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診医の処方による薬が薬局担当者によりホームに届けられる際、職員が薬の取り扱いについての注意点等の説明を受けている。症状に変化があれば、往診医の指示を得て対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方のリズムで生活して頂きながら、編み物や園芸等一人で楽しめる事に、歌やゲーム等大勢で交流を持てる機会を交え、支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等の要望があれば、タイミングを調整させて頂く事もあるが、職員付き添いの上外出して頂いている。希望により、利用者のご家族が外出・外食されるのも自由である。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の買い物には職員が同行し、お金を使って頂いている。利用者の預かり金は原則事業所で管理しているが、利用者の意向とご家族の同意の下、直接のお金の所持も可能である。		

みんなの家新川崎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望を受け、ご家族に確認を行った上で、手紙や電話等の、親睦を継続する支援を行っている。空調等も、利用者の要求により調整を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクで利用者と職員が共作した作品や、個人で作った品、行事の際の写真等を掲示し、馴染み易い空間作りを行っている。空調等は、利用者の要求により調整を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の居間以外にも、ソファやテーブルを設置して、他の方と距離を置いたり、親しい方と過ごせるスペースがある。屋外やベランダには、喫煙所も設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーペット等は防火仕様のもの、等の制限はあるものの、馴染みの家具や仏壇の使用など、その方が自宅にいらした頃に近い環境で過ごして頂けるよう環境づくりを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かり易いよう、トイレや浴室は大きな文字で表示をしたり、テーブルの席には名前の記入をしている。個室では、家具やベッドの位置を調節し、転倒しにくい環境作りに努めている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

GHみんなの家新川崎

作成日

平成22年5月4日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	研修への参加数が少なく、伝達研修等の職員の技術向上の機会を確保する要あり。	少なくとも3ヶ月に一度を目標に法人内外の研修に参加し、伝達研修を実施する。	研修案内の掲示の他、ホーム長と職員の個人面談を通しての研修参加依頼、要望聴取等。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。